

執筆者略歴

熊本 史雄（くまもと ふみお）

駒澤大学文学部教授

筑波大学大学院歴史・人類学研究科日本史学専攻修了、博士（文学）。研究業績に『大戦間期の対中国文化外交』（吉川弘文館、二〇一三年）、『幣原喜重郎』（中央公論新社、二〇二一年）、『近代日本公文書管理制度史料集』（共編、岩田書院、二〇〇九年）など。

金田 敏昌（かねだ としまさ）

外交史料館主査（『日本外交文書』編纂室）

慶應義塾大学大学院経済学研究科後期博士課程単位取得退学。研究業績に「出所を躊躇うBC級戦犯―外交史料館新規公開文書の璧」（『大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター年報』第一八号、二〇二一年）、「国立公文書館所蔵『戦争犯罪裁判関係資料』の形成過程とBC級戦争裁判研究の可能性」（『歴史学研究』第九三〇号、二〇一五年四月）など。

（略歴は寄稿時）

編集後記

本号では、令和四（二〇二二）年三月二五日に熊本史雄駒澤大学教授をお招きして開催した研究会「外交文書と外交史研究―拙著『近代日本の外交史料を読む』に即して―」の記録を冒頭に掲載しました。本研究会では、外交史研究の方法論としての「史料学的アプローチ」という手法を駆使して外交文書を「読む」ことで、どのような外交史像が描けるのか、その可能性についてご報告いただきました。その記録をご報告後の質疑応答と併せて掲載しています。

『日本外交文書 GATTへの加入』上・下については、わが国のGATT（関税及び貿易に関する一般協定）へのオブザーバー参加から、仮加入を経て正式加入に至る交渉過程に関する採録文書の概要を紹介しています。

また本号では、戦後外交記録に関する活動報告や論文を集中的に掲載しました。

活動報告としては、近年当館で公開が進んでいる「戦後条約書」の公開状況及び、戦後外交記録の展覧会・SNS等における活用事例を紹介しています。また、当館の取組みとして、アジア歴史資料センターへの戦後外交記録の画像提供の現状を紹介いたしました。当館になかなか足を運ぶことができない方におかれましては、ぜひデジタルアーカイブを介して当館の史料をご活用いただければ幸いです。また、在英日本大使館と連携した当館のレファレンス活動も紹介いたしました。

論文としては、金田敏昌主査が「外務省外交史料館が所蔵する「戦犯ファイル」八六四件の来歴」として、主に戦犯の釈放問題に関する渉外記録が収められた当館所蔵の「戦犯ファイル」の公開状況を紹介するとともに、同記録文書の内容分析を通じて、その来歴と特性を明らかにしました。対日戦犯裁判研究の発展に寄与する論考となっております。

以上『外交史料館報』第三六号の概要につきご紹介いたしました。本号刊行にあたりご協力いただいたみなさまに厚く御礼申し上げます。

〈掲載論文などの論旨は、執筆者個人の見解であつて、外務省の公式見解ではありません。〉

外交史料館報 第三六号

令和五年三月二二日

編集発行 外務省外交史料館

東京都港区麻布台一―五―三

電話 〇三―三五八五―四五一

印刷 株式会社ハップ

東京都江戸川区松江一―十一―三